

ICTを活用した障害のある児童生徒等に対する指導の充実
 (ICTを活用した職業教育に関する指導計画・指導法の開発)

成果報告書

受託団体名
埼玉県

1. 事業の実績

(1) 事業の目的・目標

事業の目的
新型コロナウイルスの流行などを背景に、社会の急激なICT化に伴い、これからの新たな職域や働き方で求められる資質・能力を調査・分析し、各障害の特性に応じて必要な能力を育成できる新たな指導計画や指導方法の開発が研究の目的である。
事業の目標
視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、知的障害の障害種ごとの職業教育における新たな指導計画及び指導方法の開発及び先進事例共有等のための研究報告書の作成

(2) 研究協力機関・校の一覧

(ふりがな) 学校名	障害種	具体的な役割
さいたまけんりつかわじま おかとくべつしえんがっこう 埼玉県立川島ひばりが丘特別支援学校	肢体不自由	分身ロボットを活用した職業教育 (接客業務など) 在宅勤務を目指したICT活用研究
さいたまけんりつつかまがやとくべつしえんがっこう 埼玉県立熊谷特別支援学校	肢体不自由	分身ロボットを活用した職業教育 (事業所の見学など)
さいたまけんりつとくべつしえんがっこうはなわほきいちがくえん 埼玉県立特別支援学校 塙保己一学園	視覚障害	視覚障害者のICT活用事例研究
さいたまけんりつとくべつしえんがっこうさかど がくえん 埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園	聴覚障害	聴覚障害者のICT活用事例研究
さいたまけんりつこしがやとくべつしえんがっこう 埼玉県立越谷西特別支援学校	知的障害	ICTを活用したチームティーチング実践 事例研究
さいたまけんりつとくべつしえんがっこうはにゅう こうとうがくえん 埼玉県立特別支援学校羽生ふじ高等学園	知的障害 (職業学科)	ICTを活用した職業体験・面接体験
さいたまけんりつこしがやとくべつしえんがっこう 埼玉県立越谷特別支援学校	知的障害	福祉サービスでのICT活用事例研究

(3) 取組内容

- ・障害種ごとの職業教育実践モデルの検討を行い、ICT機器を活用した授業や課外活動を実施し、その前後において情報機器の活用などの部分で生徒の意識や行動が変容したかを教員が主体的に取り組めたか、就職のために必要な知識が習得できたか、ICTに関する理解が深まったかなどの観点で評価する形で実証研究を行った。
- ・一例をあげると、肢体不自由の学校において、初めてのことに挑戦する意欲を引き出すことや場所等にこだわらない多種多様なコミュニケーションを学ぶことをねらいとして、分身ロボットを体験的に導入し、リモートによる企業見学や接客体験を行った。参加した生徒は分身ロボットの操作方法を理解し、分身ロボットを通して自信をもってコミュニケーションが取れるようになった。
- ・在宅就労を積極的に実践する企業の担当者を招き、県内特別支援学校の進路指導担当者などに対し、在宅就労の取組と課題について研修を実施した。研修はオンラインで一日間実施し、47名が参加した。
- ・昨年度からの2年間で実施した調査、研究等をまとめた報告書を作成した。肢体不自由特別支援学校では、移動が困難な生徒の職業教育や学校生活において分身ロボットを活用したり、聴覚障害特別支援学校では卒業生とのやり取りや進路に関する情報収集などにおいて、視覚で認識できるようタブレット端末やアプリを活用したり、知的障害特別支援学校ではグループでの学習で生徒と教員全員が情報共有を図る上でタブレット端末を活用するなど、それぞれの障害種でICT機器を活用した授業を展開した。

(4) 成果

- ・情報機器の活用や、職業生活に必要な知識や技能の習得に関することにおいて、生徒の意識や行動における変容が著しかった。
- ・情報機器の活用については、生徒が実際にICT機器に触れ、実際に操作を行うことにより操作方法を学ぶことができ、また視覚的な情報が提示できるため、授業に対する生徒の理解が進み、自分で質問ができる生徒が増えるなど、生徒の主体的な行動を引き出すことができた。
- ・職業生活に必要な知識や技能の習得に関することにおいても、タブレット端末を利用して調べ学習や会社見学会等の閲覧などを主体的に行う様子が見られたり、リモートによる職場実習では、体験した生徒がその後大学の体験授業に参加するなど積極的に自分の進路を考えるようになった。
- ・実際に在宅就労を積極的に実践する企業の担当者による研修では、専用ツールを使用した在宅勤務者とのやり取りの様子をオンラインで見る機会があり、参加した教員の多くが、ICTを活用した職業教育のイメージを持つことができた。

(5) 課題と対応方策

- ・ICTを活用している障害者雇用の職場や福祉サービスが学校現場に馴染みがないため、今回実施した研修のように、今後このような職場や福祉サービスの現場を教員が見学するなどして、ICTを活用する上でのノウハウを積極的に吸収していく必要がある。